

JA新はこだて花卉生産出荷組合檜山南部支部を訪ねました

檜山管内の花きの生産についてお話を聞くため、JA新はこだて花卉（かき）生産出荷組合檜山南部支部の山口支部長の案内で、江差町の部会員、泉清一さんの農場へ伺いました。

農場では「ストック」の選花作業中であり、お米の収穫作業も控える中で対応していただきました。

■JA新はこだて花卉生産出荷組合檜山南部支部の紹介

JA新はこだて花卉生産出荷組合檜山南部支部は、19名の花卉組合員で構成され、厚沢部町（6名）、江差町（4名）、せたな町（9名）の生産者が属し、主にりんどう、ストック、われもこう、トルコキキョウ、デルフィニウム、キンギョソウ、ヒマワリの7品種を栽培しています。

■高品質な花きの生産に向けて

JA新はこだて花卉生産出荷組合の品目部会（15部会）が中心となり、市場関係者を招いての情報交換、お互いの栽培状況を確認する研修会、夏場の需要期には出荷規格や市況及び選花時の注意点などを確認するための検討会を開催するなど、栽培技術や品質の向上に取り組んでいます。

■花の地産地消をPR

檜山の花は、道内の他、関東や関西、中国地域などの市場へ出荷されています。

JA新はこだて花卉生産組合の木村秀喜りんどう部会長、木村敏彦デルフィニウム部会長と同組合檜山南部支部の山口艶子支部長の3名が地元の人に檜山の花を知ってもらうため、9月21日に檜山振興局を訪れ、山崎峰男振興局長に自分たちで生産した「檜山の花」を贈呈し、生産状況の報告とPR活動を行いました。



左から木村デルフィニウム部会長、山崎振興局長、山口支部長、木村りんどう部会長
（檜山振興局長室）

■取材を終えて

泉さんは朝3時半から登山などに使われるLEDヘッドランプをつけ、ビニールハウスの中で「ストック」を収穫し、長さを揃え結束して箱詰めまでの選花作業をご夫婦でしているとのことでした。

生育については、夏場の暑さの影響で、草丈が短いとのことでした。

近年は湿度が高いため、収穫した花にカビが発生しやすく、保管管理が大変との苦労話もありましたが、「手間暇かければ良い花が作れるし、今度はもっと良い花を作るぞと思うので、楽しい」と、笑顔で話してくれたことがとても印象に残りました。

このように、手間暇かけて楽しく花を育てる農家の皆さんがいるからこそ、きれいな花を見て買うことができるのだと思いました。



泉 清一さん



檜山のりんどう

(平成23年9月取材 檜山振興局農務課)